

デザインガイドラインにおける街区コーナーに関する言説の特徴

日大生産工 〇武藤 諒太
同 山岸 輝樹

1 目的

本研究は都市デザインの方法に具体的な指針を示すデザインガイドラインの言説の特徴を明らかにすることを目的とする。具体的には都市空間において交差点を形成し景観上重要な位置を占める街区コーナーに着目し、「幕張ベイタウン都市デザインガイドライン」で示される街区コーナーに関連する言説をテキストマイニングからその特徴を明らかにする。本稿では特にその方法について報告を行う。

2 デザインガイドラインの言説分析

本研究の流れを図1に示す。まず言説をデザインガイドラインから抽出し、データベース化する。ここでは「街角」や「コーナー」を含む言説、またその空間を構成する「住棟のファサード」、「街路」、「広場」に関わる言説を抽出する。次に抽出した言説から頻出語を抽出し、その内容を明らかにする。そしてその頻出語を意味ごとに分類し、最後に共起ネットワークによって言説の特徴を明らかにする。

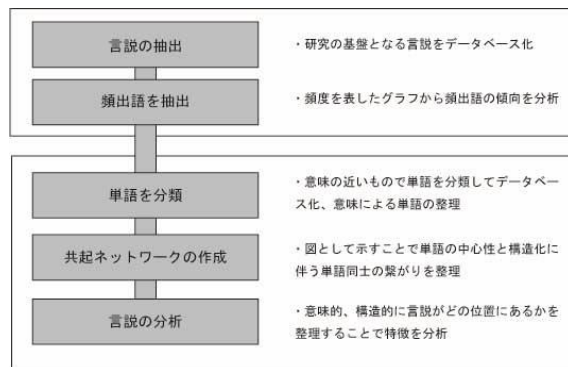


図1 研究フローチャート

2-1言説を抽出

はじめに幕張ベイタウンのデザインガイドラインから分析の対象とする言説を抽出する。抽出する条件として、ここでは第一段階として

「街角」や「コーナー」といった街区コーナーの同義語を含む12の言説を対象とする。第二段階としてこれら言説をもとに街区コーナーを構成する要素などを取り上げ、さらにこれらを含む50の言説を抽出し、これらをデータベース化する。

表1 抽出した言説

1 住棟などの整備にあたっては、交差する街角空間が文化施設と一体になって、タウンコアにふさわしい交流の場として形成されるような空間として整備する。
2 また道路の整備については、人々の往来による賑わいを展開する基盤となるものであり、街角広場、ストリートファニチャー等を工夫し、アメニティの高い空間構成を図る。
3 景観施設は、街路上の主要な定点を取り囲むようなまとまりのある小領域の場所、すなわち主たる街角等に設定し、それぞれのその場所の特質を際立たせる効果を狙い次のような施設を計画する。
4 街区のコーナーが美浜プロムナード導入路正面に位置することから、街区のコーナーの一部を吹き放ち、アトラクティブな小広場、透明で質の高い目を引くコーナーをつくります。

2-2頻出語を抽出

テキストマイニングソフトの「KH-Coder」を用いてデータベースに集められた言説の頻出語を抽出する。ただし、抽出するのは建築の表現を意図した名詞、形容詞、動詞とする。一方で「幕張」、「美浜」などの固有名詞、「高い」、「多い」といった度合いを表すもの、「場合」、「最初」など建築的操作に直接かわらないもの、「施す」、「図る」といった頻出度が高いが具体的な建築的操作に影響を及ぼさないものは抽出語から除く。

抽出語を見ると上位に名詞が多く上がっていることがわかる。特に「街」や「施設」といった都市的な空間を表す言葉が高い傾向にある。一方で住まいづくりに関しては都市的な単語と比較すると少ない。このことから街区コーナーに関わる言説は住まいづくりに関するものと比較して都市性への関心が高いことが窺える。

Characteristics of Discourse on Corner in Design Guidelines

Ryota MUTO Teruki YAMAGISHI

1	街	名詞C	33	
2	施設	サ変名詞	29	
3	住	名詞C	25	
4	街路	名詞	23	
5	広場	名詞	18	
6	商業	名詞	16	
7	空間	名詞	15	
8	街並み	名詞	14	

図2 頻出語グラフ

2-3単語を分類

概念として整理しやすいように意味の近いものを集約していくつかのグループに整理する。例として「歩道」、「沿道」は同一グループに属する。ここでのイメージは「道」だが、言語においてその意味は画一的ではない。そこで「歩道」は「歩行者」と「歩」という複数のグループに属することを可とする。また、ここでは単語の意味による分類であるため、「セミパブリック」のような「セミ」と「パブリック」が複合した専門性の高い用語は一つの単語として扱う。この分類により単語が異なっても同一の意味を持つものであれば、単語をもとに他の言説と関係づけて分析できるようになる。分類の例として「都市性における重要性」や「商業的な役割」を表すグループでまとめる。

表2 単語の分類

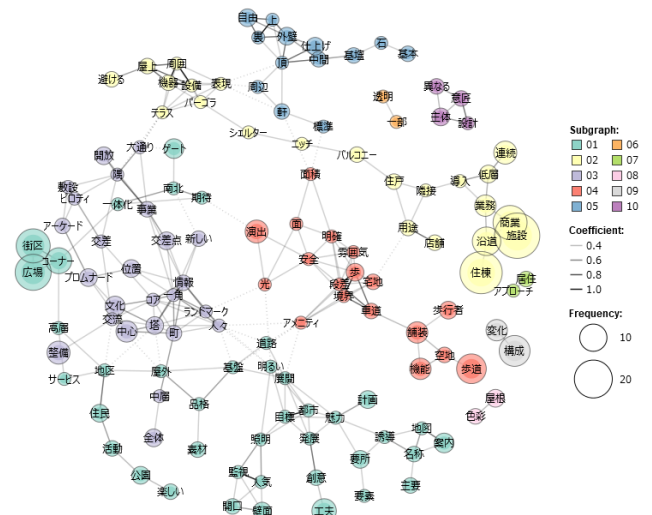
人	街並み	活動	拠点	施設	広場	象徴	住棟	商業施設
住民	シルエット	交流	中心	文化施設	屋外広場	特徴	住戸	街角店舗
来訪者		交流の場	基盤	公的空間	街角広場	目を引く	住宅	業務施設
人々		賑わい	主要な定着	周辺建物	小広場	シンボル	中層住棟	商業
歩行者		コミュニティ	要所		ポケット	独特性	住居棟	ショップ
車両		サービス			街路歩道	隣接させる	宅地	店舗棟
来街者		活発				記憶		
自動車		都市活動				特徴		
		人気				意識		
						明確		
						区分		
						浮かび上がらせる		
						わかりやすい		
						名称		
						しっかり		

2-4共起ネットワークの作成

「KH-Coder」を用いて共起ネットワークを作成する。共起ネットワークは同一段落の抽出語を用いて出現パターンが似通ったものを共起し、線で結んだ図である。バブルの大きさは出現度の高さを表し、線の太さは共起の強さを表す。また、色によるグループ化は複数の言説から共起する語の場面の変化を可視化することができる。なおこの図は布置された位置に意味はない。また、共起されることが多い、すなわち中心性の高い単語を明らかに

にすることができる。また、構造化する際の分析者による恣意性が排除できないという欠点を補うため、統計的な視点から考察する。また、言説の部分ごとの特徴を見つけることができる。例として「施設」は出現度は高いが共起パターンは少ないことがわかる。

図3 共起ネットワーク



3まとめ

本研究では幕張ベイタウンのデザインガイドラインから街区コーナーに関わる言説を抽出した。次にその言説から頻出語を抽出、意味による単語の分類で、ある単語の用いられた言説を同一の意味の単語を持つ他の言説と関係づけて分析できるようにする。テキストマイニングツール「KH-Coder」から共起ネットワークを作成してデータベース全体の言説の共起関係を分析する。最後に再び言説の内容に立ち返ることでデザインガイドラインの特徴を明らかにしたい。また、より明確に特徴としてとらえるためには他の枠組みによる街区コーナーに関わる言説と比較し、考察する必要がある。本研究で検証したのはあくまで限定的な範囲のデザインガイドラインの言説であるため他の事例の街区コーナーについて正確に表したものではない。

「参考文献」

- 1) 土田旭,「幕張ベイタウンの都市デザインMIC2001土田旭グループの試み」,株式会社都市環境研究所(2012)
- 2) 樋口耕一,「KH-Coder3チュートリアル」,(2018)